

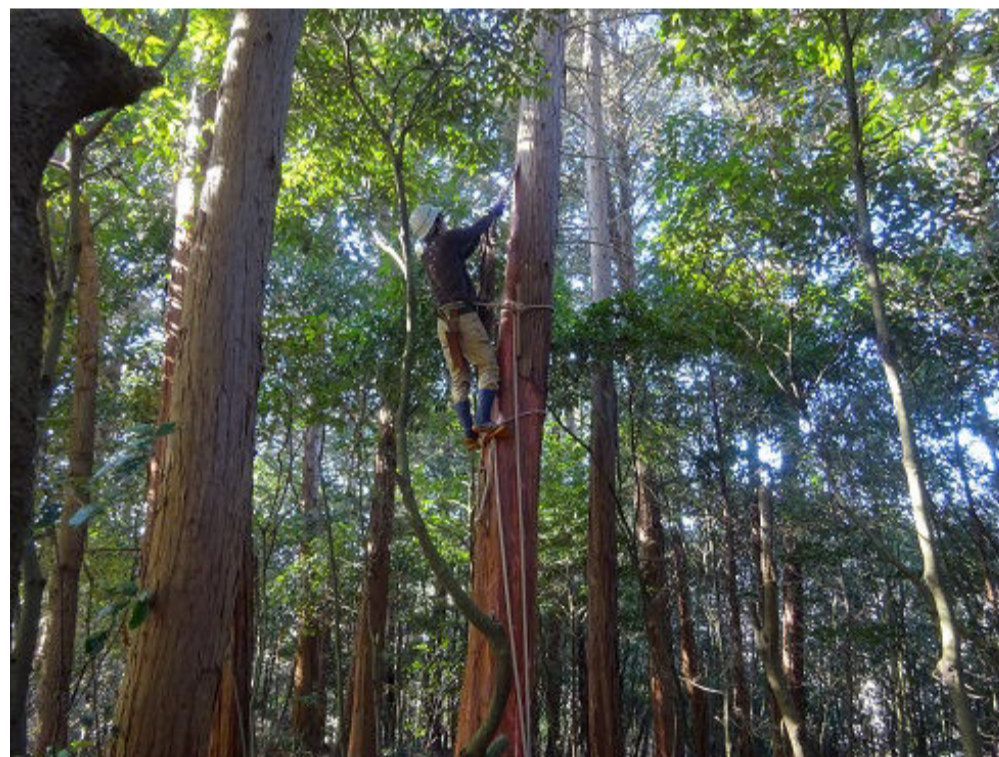
# 重要文化財 月華殿

## 保存修理事業

We are working on the construction of Gekaden now. Main construction is reroofing. There are two types of roofing in this building, the upper is Hiwada-buki, which is made of Hiwada (= Japanese cypress bark), and the lower is Kokera-buki, which is made of Kokera (= thin board). ("buki" means making a roof). To make these properly, we have men which have Japanese traditional techniques



げっかでん げんざい ほぞんしゅうり こうじ おこな さいだい もくてき やね ふ か こうじ ひわだ ぶ  
月華殿では現在、保存修理のための工事が行われています。最大の目的は屋根葺き替え工事、檜皮葺きと  
こけらぶ やね ふ か  
柿葺きの屋根を葺き替えることです。  
ぶんかざい けんぞうぶつ いじ かんり にほん ころい でんとうぎじゆつ もち おこな とく ひわだ ぶ こけらぶ やね ふ  
文化財建造物の維持管理は、日本古来の伝統技術を用いて行われます。特に檜皮葺き・柿葺き屋根の葺き  
か かんとうけん み たいへんきちょう こうじ  
替えは、関東圏ではめったに見ることのできない大変貴重な工事です。



ひのき じゆひ たちき は と さい  
檜の樹皮は、立木のまま剥ぎ取られ採  
集されます。樹皮は木を傷めずに剥ぎ  
と  
取られるのでやがて再生し、そして数  
じゅうねんご おな き あたら ざいりょう さいしゅう  
十年後、同じ木から新しい材料を採集  
することができるのです。

さいしゅう ひわだ やね ふ てきとう  
採集された檜皮は、屋根を葺くのに適当  
な形に整えられます。檜皮葺き屋根葺き  
さぎょう ひわだ さいしゅう かこう だんかい  
作業では、檜皮の採集とこの加工の段階  
までの方が手間と時間がかかります。



ひわだ ぶ まま みず ひた やわら じょうたい  
檜皮は葺く前に水に浸し柔らかい状態に  
し、丁寧に並べ屋根の形を作り上げます。  
ていねい なら やね のかたちをつくりあげます。  
なら ひわだ たけせい くさう つ  
並べた檜皮は竹製の釘で打ち付けます。  
たけくぎ しめ やね ふ しよくにん  
竹釘も湿らせるため、屋根葺きの職人は  
たけくぎ くちなか ふく とどの くち  
竹釘を口の中を含み、向きを整え口から  
はきだしてリズムカルに打ち付けていき  
ます。



こけらいた まるたさい わ だ あつた ぶ  
柿板は丸太材から割り出した厚板(8分  
=24mm)を2等分することを繰り返して、  
さいしゅうてき ぶ つく  
最終的に1分=3mmに作りだした板のこ  
とを指します。繊維に沿って割って作ら  
れた板は丈夫で、ほど良い凹凸は板が重  
なつとき ふうせいの確保します。



こけらいた ひわだ どうようすこ なら  
柿板も檜皮同様少しずつずらして並べて  
やね かたち つく あ たけせい くさう つ  
屋根の形を作り上げ、竹製の釘で打ち付  
けます。隅や谷の曲面部分には、緩やか  
たに きょくめんぶぶん  
に曲げられる特別な材料を用いていま  
ま とくべつ ざいりょう もち  
す。板の材料はスギやサワラなどです。

### ひわだ ぶ こけらぶ 檜皮葺き・柿葺き とは？

にほん ころい しょくぶつ ざいりょう やね ふ や  
日本では古来、植物を材料として屋根を葺く (=屋  
ね つく おこな なか ひわだ ひのき  
根を作る) ことが行われてきました。中でも檜皮=檜  
じゆひ ぼうすいせい すぐ うす やわら そざい  
の樹皮は防水性に優れ、薄く柔らかい素材であること  
ゆうび きょくせん も やね ふ やね  
から優美な曲線を持つ屋根を葺くことができ、屋根の  
なか もっと かくしき たか しゃじ きゅうでんけんちく  
中でも最も格式の高いものとして社寺や宮殿建築など  
おお もち き わ さ つく いたざい  
で多く用いられてきました。木を割り裂いて作る板材  
つか ふ やね しんりん しげん めぐ にほん ふる  
を使って葺く屋根は、森林資源に恵まれた日本で古く  
もち やね なか ぶ やく  
から用いられていた屋根になります。中でも1分=約  
うす いた こけらいた ふ こけらぶ いた  
3mmもの薄さの板(柿板)で葺く「柿葺き」は、板の  
うす つく てき ゆる やねきょくめん み  
薄さゆえに作ることが出来る緩やかな屋根曲面が魅  
りよく にほん ほこ たくみ わざ しょうちょう  
力、日本が誇る匠の技の象徴です。

しかし屋根は常に風雨や強い日差しに晒される箇所  
じょじょ れっか ととき あまも おお ひがい  
であり、徐々に劣化し時に雨漏りなどの大きな被害を  
もたらすこともあります。そのため定期的な作り替え  
ふ か さぎょう か ひわだ ぶ こけらぶ やね  
=葺き替え作業は欠かせず、檜皮葺き・柿葺き屋根の  
ばあい ねんごと ふ か おこな  
場合およそ30年毎に葺き替えが行われます。  
げっかでん やね しょうわ ねん いらい だいきば ふ  
月華殿の屋根は、昭和63年(1988)以来大規模な葺  
か おこな れっか しんこく じょうたい  
き替えは行われておらず、劣化は深刻な状態でした。